
ドクロ・オブ・ハート?

かえ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドクロ・オブ・ハート？

【Nコード】

N0800BA

【作者名】

かえ子

【あらすじ】

聖女が倒れてしまった今、主人公・キタミとその仲間たちはハートを集め、

聖女のトコに返すコトができるのか…

第1話 現れるハート（前書き）

喜多見家

キタミ母「心愛ー！チコクするわよー！
起きなさい。」

キタミ「わわわわー！チコクしちゃうー！」

キタミ父「元気がいいな。相変わらず」

赤髪のサイドテールにオレンジと緑の星のヘアゴムをした
少女がトーストを口に食わえながら家を出た。

キタミ「ふいつへひふあゝふ（行つてきまゝす！）」

~~~~~

## 第1話 現れるハート

「現れたハート」

キタミ「遅れちゃうー！（おっと、自己紹介がまだだったね。

あたしの名前は 喜多見 心愛、15歳。みんなから「キタミ」と呼ばれているの。」

「ジャス高校」

「???」遅エぞー！キタミ！

白髪でクセのある髪型で顔にホータイヤバンソーコやシップをした男がキタミに話しかけた。

キタミ「（あ、ついでに、このコは早乙女 久李須<sup>クリス</sup>

ポケモンやゼルダなどのゲームが大好き。ぶっきらぼうだケド、勉強もスポーツも得意で殆どの人たちに人気ある…。ってウワサも？ちなみに、あたしとクリスは中学校2年生から親友になったの。）」

「???」教室いこーよ！」

黄色のクセありショートヘアでハートのヘアピンをした少し小柄の少年が言った。

キタミ「（このコは高坂 フユキ

ちよつと毒舌家で小悪魔的なのが魅力的なの。

ちなみにあたしとフユキは通ってた学校も同じなの。 クラスは違

うケド）」

???「1人足りない気が…」

青髪のストレートヘアでメガネをかけた美形の少年は  
そう言った。

キタミ「（このコは、13日前の入学式の時に出会った、雪本 彰  
女子人気ナンバー1の美少年、勉強もスポーツもできるって、ウワ  
サも。

ちなみにクリスはナンバー5）」

???「ユキモトくん！」

濃い色の緑髪でピンクの水玉シユシユを着けた  
女が爆走してきた。

キタミ&クリス&フユキ「ぎゃああー！」

キタミたちは目を回した。

キタミ「最後に、ナルシストでやかましい女の、大山 瀬恋って言  
うの。

ユキモトくんのコトが好きで、勝手に好きなの宣言しちゃってるら  
しい。」

オーヤマ「おはよッ！」

オーヤマはユキモトに付きまとう。

ユキモト「おはよ・・・、キミ、しつこくするのは、

やめた方がイイよ・・・」

オーヤマ「もー！何でよオ！」

キーン コーン カーン コーン

キタミ「チャイムなっちゃった！」

ユキモト「教室へ行こう！」

フユキ&クリス「うん！（おう！）」

~~~~~

キタミたちの担任の生徒「高校は、中学に比べて厳しくなってますからねエ。手を抜いてはダメですよ。」

生徒全員（キタミ以外）「ハイ！」

キタミ「うわぁ・・・

勉強、中学と同じくらいムズそう・・・」

説明しよう。

キタミは勉強が大の苦手なのだ。

数十分後

キタミ「ウヘエ・・・

もう限界・・・」

クリス「おいおい、だらしないぞ、キタミ
いつか受験落ちてても、知らんからな。（黒笑）」

キタミ「だあゝってえゝ（泣）」

また説明しよう。

クリスは中学受験、高校受験を合格したコトがあるほど
成績優秀なのだ。

ユキモト「宿題で、分からない所があったら
いつでも、教えてね。」

オーヤマ「うう・・・！わ、私、キタミの子供と違って、
わりと勉強、できる方・・・なんだからね！」

→強気で言っている。

フユキ「国語以外は80点より少し低い方には
言っていないんだよね（黒）」

オーヤマ「・・・！もう！」

フユキ「アハハッ」（黒笑）」

4時間目、体育の時間

体育の先生「今日の体育は、バスケだ、みんな、しっかりな！」

生徒全員「ハイッ！」

クリス「ユキモト！」

クリスはユキモトにパスを繰り出した。

パシッ！

ユキモト「（・・・パスは受け取った！今がチャンス！）
はあッ！」

生徒「うわ！」

ピッピーー！

女子たち「キャー！」

キタミ「スゴ・・・2人とも人気すぎ・・・」

オーヤマ「ユキモトくん・・・／／／／／」

女子A「アナタたち、この2人と何か関係あるの？」

オーヤマ「そーなの！クリスは私の引き立て・・・」

キタミ&フユキ「ダアーメエーだー！」

オーヤマ「ブッブー！ブブブブブブブブブブブブブブブ！（ちょっと
お！何で×マスクを着けんのよオ！）」

キタミ「あ、あたしたち、この2人の親友なんだ。」

フユキ「あ、そうそう」

フユキは口を挟んだ。

フユキ「ボクのコト、女と間違えないでね。」

女子A「ううッ・・・（泣）恋人じゃないのに、親友宣言しちゃうだなんて・・・」

女子B「うらやましすぎるわ・・・ッ！」

キタミ「（嫉妬してるのね）
てかあたしらの話、聞いてないし」

（泣）」

昼食の時間

キタミ「ボ」

クリス「おいキタミ！
何ボーツとしてんだよ。」

キタミ「ゴメン…今日の授業のコトで
考えてたの。」

フユキ「あ、心愛ちゃんの分の昼食買ったから。
あったかいうちに食べればいいよ。（ムシャムシャ）」

フユキはチョココロネを食べながら
そう言った。

クリス「おい、フユキ！

モノを噛じりながらしゃべるな！」

フユキ「ゴメン。ついクセで。」

↓下校の時間↓

男子生徒A「じゃーな」

男子生徒B「そんじゃまた明日」。↓

キタミ「（今日は宿題無し＋ゲーム雑誌発売日！
やったー！あたし、第1話から超ツイてる）」

ダーツ！

キタミはダツシュした。が・・・

クリス「あ、俺、虹ノ橋公園でサッカーやるんだった。
良かったら来いよ。」

オーヤマ「私観戦します。」

キタミ「ダーツ！」

キタミはズッコケた。

ユキモト「本ならいつだって帰るよ。」

キタミ「あ、ありがとう・・・（照）」

↓放課後 虹ノ橋公園にて↓

クリス「なあ、今やってるコトもそうダケドさ
もっと面白いの、ココら辺にねエのか？」

フユキ「そう言われても、
ココに無いよ。」

クリス「なーんだ。」

クリスはドリブルをした後に
シュートをした。

オーヤマ&キタミ「うわああああ!？」

クリス「ああ、スマン。

ココの公園、ゴールポスト無かったから、つい」

オーヤマ「ああぶないじゃないのおお!」

キタミ「アハハ・・・ナイスコンビネーション・・・」

キタミは鼻血を出した。

ユキモト「あ、そろそろ夕方になるね。
みんな、そろそろ帰ろうよ。

ユキモト以外全員「そうだね。」

クリス「そんじゃ、俺らココらでおさらばするぜ。」

フユキ&オーヤマ「またね〜?」

ユキモト&キタミ「また明日〜。」

ユキモト「それじゃ、僕のお家、キミより
少し遠くだからね。」

キタミ「う、うん・・・(照)」

ユキモト「じゃあ、また明日!」

キタミ「バイバイ。」

〜本屋〜

キタミ「(ゲーム雑誌、ゲーム雑誌...と
あった!)」

〜その夜 イッツ・お風呂タイム〜
→デント風に・・・

キタミ「(あ〜?ユキモトさんと帰り道一緒のようだなんで、
夢みたい...?)」

キタミの弟「アネキ〜、いつまで入ってんだよ〜
のぼせちゃうぜ〜」

キタミ「はッ！」

くキタミの部屋く

キタミ「さ、読もつと」

ボンッ

キタミは赤色のドクロに変身した。

パアア

キタミ「（・・・え、何？）」

キタミが本を読もうとするが、なぜか黒くピンク色のラメで。マークが少し付いたハートが、雑誌から出てきた。

キタミ「不思議…可愛い…！」

聖女の声「コレは、幸せの時に出てくる「ハート」です。

アナタは、その仲間たちとともに、ハートを集めて、神殿に平和を取り戻すのです。」

キタミ「…！」

キタミの前に、香水ビンのような入れ物が現れた。

キタミ「可愛い…あッ！」

ハートは、香水ビンの中に吸い込まれた。

キタミ「クリスの言ってた、「面白いコトって、コレだったんだ・・・」。

よーし！あたし、仲間を集めて、神殿の平和を取り戻すぞー！」

キタミの弟「何やってんだ、アネキ、宿題あるならやれよ。」

キタミ「はッ！」

ボンッ

キタミは人間の姿に戻った。

キタミ「キャーッッ！宿題ーッ！

センセに怒られるウウ~~~~！」

キタミの弟「道理で怪しそうだと思ったら…（呆）」

キタミの仲間探し&ハート集めが始まるのであった…

~~~~~

## 第1話 現れるハート（後書き）

### 次回予告

キタミ「あたしのクラスに転校生！？しかも超かわいいコ！  
その名は、諸星 詩音！ねえ、シオンさん！あたしと一緒に、ハ  
ト集めしようよ！

次回「ナゾの転校生 諸星 詩音登場！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0800ba/>

---

ドクロ・オブ・ハート？

2012年1月1日22時47分発行